



2014
呉高専創立50周年

呉高専だより

■50周年記念ロゴ（呉高専は2014年で創立50年になります。）

69号 2014.3



軽音楽部

も く じ

校長あいさつ

・レンズは語る「ぐるぐるスクール」（校長 森野 数博）…1

トピックス

・女子学生による情報発信
-高専女子百科 Jr. 呉高専版の発行と女子学生広報部の設置-
(広報室長 佐々木 伸子) …3

退職教員紹介

・退職にあたって-私の将来を決めたオリンピック-
(人文社会系分野 谷岡 憲三) …4

新任教員紹介

・「研究者」から「教育者」へ（自然科学系分野 田中 慎一）…5
・就任にあたって（機械工学分野 國安 美子）…6

卒業生紹介

・5年間をふりかえって（機械工学科5年 佐々木 充）…6
・5年分の思い出と感謝（電気情報工学科5年 都田 智大）…7
・成長と後悔（環境都市工学科5年 菅 聡司）…7
・-変わるもの、変わらないもの-（建築学科5年 蛸瀬 大貴）…8

修了生紹介

・7年間を振り返って（専攻科機械電気工学専攻2年 向原 康平）…8
・私の7年間（専攻科建設工学専攻2年 下田 卓）…9

学年行事

・高専に入って変わったこと（機械工学科1年 高杉 栄美里）…9
・一年を振り返って（電気情報工学科1年 市場 創太）…10
・今年一年間を振り返って（環境都市工学科1年 山下 すみれ）…10
・建築学科1年生 活躍する（建築学科1年担任 木原 滋哉）…11
・陸上競技への思い（機械工学科2年 瀬尾 敬太郎）…11
・ロボコン部の Shall We Jump?
(電気情報工学科2年 上本 康介) …12

・演劇同好会を部活に
(環境都市工学科2年 中崎 直人、室 佳史乃) …12
・Realize My Dream!
(建築学科2年 吉本 菜那) …13
・ステップキャンパス（機械工学科3年 矢野 恵太）…13
・ステップキャンパスを振り返って（電気情報工学科3年 竹寄 幸之助）…14
・ステップキャンパスを終えて（環境都市工学科3年 丸亀 伸）…14

・ステップキャンパスの思い出（建築学科3年 赤木 優実）…15
・グアム特別見旅行（機械工学科4年 小川 将太）…15
・東京研修旅行（電気情報工学科4年 加茂 佳彦）…16
・初の海外旅行（環境都市工学科4年 大本 卓弥）…16
・特別見学旅行（東京）（建築学科4年 石井 雅也）…17

国際交流

・Do you know what “国際学会” is ?
(専攻科機械電気工学専攻2年 大久保 憲佑) …17
・高専生のための夏季英語研修-英語キャンプ2013-
(建築学科2年 高田 侑奈) …18
・マウイ研修を終えて（建築学科4年 桑田 千愛）…18
・台湾師範大学に語学研修に行つて
(電気情報工学科4年 下向 翼) …19
・大連・異文化体験プログラムに参加して
(環境都市工学科3年 上岡 雅子) …20
・国際交流室員の熱い思い（国際交流室 尾川 茂）…20

コンテスト

・デザコン2013 in 米子（建築学分野 松野 一成）…21
・高専ロボコン2013（機械工学科3年 田中 真実）…21
・プログラミングコンテスト in 旭川
(電気情報工学分野 藤井 敏則) …22

学校行事

・第9回呉高専文化行事『ファンクションコンサート』の開催
(学生主事補 上寺 哲也) …22
・平成25年度体育祭り（学生主事補 加納 誠二）…23
・第49回校内駅伝大会（学生主事補 加納 誠二）…23
・高専祭を終えて（高専祭実行委員長 横手 直哉）…24

嶺陽寮

・寮生歴3年（建築学科3年 伊達 千尋）…24
・寮のイベント（電気情報工学科4年 下原 剛）…25

その他

・-被災者交流施設-を模型に（広報室）…25

大会結果

・第48回全国高等専門学校体育大会成績他 …26

レンズは語る「ぐるぐるスクール」

校長 森野 数博

すでにご承知かと思いますが、日曜日の夕刻広島テレビで放映されている「ぐるぐるスクール」に、呉高専が取り上げられました。30分番組で、2週連続で構成されており、本校は2月9日と16日に放映されましたが、多くの方がご覧になったことでしょう。とてもよく編集されていて、改めて呉高専を見直すいい機会になったのではないかと思います。

本校は気になる存在であったらしく、ずいぶん前からリサーチされていたようで、そんな想いもあってか、番組の“つかみ”で次のように紹介されました。「初めての国立、そして高専。みなさんの熱いリクエストにお応えして・・・」

私自身、呉高専が世間の人にどう映っているのか常々気になっていたこともあり、何が興味を引き、どのような視点で番組が編集されるか大きな関心をもって放映日を楽しみにしていました。まず出てきたフレーズが「理系エリートが集まる呉高専」「何もかもが規格外」、そして「理系エリート呉高専の実態が明らかに」と続き、学校紹介に移りました。

「驚愕の高専ルール」だとか個性派学生による「ハンパねえ選手権 in 呉高専」だとか、一步間違うととんでもない学校と受け取られかねないなかであって、案内役の古屋さんはもちろん、画面に映るどの学生もどの学生も、じつに“まじめで、かしこそう”

もちろん、3Dプリンターやレーザーカッター、スマートボードなど、最新設備を取り入れて行っている授業が“ハンパねえ!”という驚きをもって受け取られるであろうことはある程度予想していましたが、後篇のロボコン部の活躍ぶりやコマ大戦での熱戦なども相まって「ものづくりへの熱き情熱が大

爆発」とのメッセージに、先進技術を駆使したものづくり教育の実践に対し、最大限の評価が込められているように感じました。

担当のディレクター氏によると、呉高専にはネタがありすぎて、どう絞り込むかが最も頭を悩ませたことだとか。別の切り口でさらに続編をつくることも十分可能だと言われていました。呉高専はそんな状況にある。我々はずっと自信をもっている、そう思います。

今回私が最も嬉しく思ったのは、番組をつくるスタッフの目に、みなさんがすばらしい素材である印象を与えたこと。それが前提にあることで、他の高校とはひと味違った切り口で深みのある番組構成ができたのだと。画面はじつに正直なものです。実際、学生のみなさんはじつに素敵で、番組を再生するたびに思わず“にやり”とする自分がいて、困ってしまうほどです。ちなみに、来年度の入学説明会の辞退者は2名のみ。例年は5~6名いますので、この映像が影響を与えたのかもしれない。

しかし、現状で十分でないことは、みなさん自身も感じておられることと思います。このような素晴らしい素質が十分には磨ききれていない。それには本校の教育全般についても見直す必要があり、いま「呉高専教育改革検討プロジェクト」を設け、鋭意検討を続けています。そのポイントは、いかにしてみなさん自身に自立心を育て、自律させるかということ。我々ができるのは、環境づくりまで。最後は夢の実現に向け、みなさん自身がやるしかありません。「何もかもが規格外」である環境下で「理系エリート」であるみなさんの才能をともに伸ばすこと、これがこの番組による呉高専の評価から改めて得た私のこれからの指針です。

呉高専撮影ドキュメント「ぐるぐるスクールができるまで」

広報室

ぐるぐるスクールの取材では、7つの項目に分けて「ものづくり」を中心に本校の最新設備を始め、学生を紹介してもらいました。ここでは、収録をピックアップして紹介します。視聴者からの反応も良く呉高専の特色を多くの方に解ってもらえたのではないのでしょうか。



広島テレビ ディレクター
小西雅人さん

10月に収録依頼のお話を頂いてから1月末まで、約10回にわたる打合せと撮影に来校いただきました。学生との打ち合わせや、カメラを持ちこんでの学内撮影。「情報発信者」たるべき高い意識を持って収録当日の台本作成や撮影現場の下見などをしていただき、呉高専の魅力を最大限に伝える番組制作を進めていただきました。

1 くれまリンクイーンがお出迎え・学内案内(A2)

くれまリンクイーンの高屋智郷さん(S2)が、トータルテンボスと同行し呉高専の紹介をしました。学内の3教室を案内。初めに、建築学科2年教室へ行き、呉高専の魅力を学生たちがフリップに書いて発表しました。



2 機械工学科の3Dプリンター

機械工学科上寺先生が最新設備3Dプリンターを紹介しました。学生たちがパソコンを使い3Dプリンターの操作を説明。呉高専のエンジニアの技術力を伝える事ができました。



3 建築学科のスマートボード&レーザーカッター

デザインラボにて建築学科3年の学生と授業体験。建築学科間瀬先生がレーザーカッターを紹介。下倉先生がスマートボードを紹介しました。



4 ハンパねえ選手権!

昼休憩時間、第1体育館に1年生から3年生までが集合し、ハンパねえ選手権に3組が出場しました。①スーパーギタリスト武永成生くん(S2)、バンド(Gt、B、Dr)+ホーン6名(吹奏楽部) ②テスラコイルの佐々木渉くん(E3)、ダンス部の北岡師光くん(M4)+8名 ③ミス呉高専の 檀上千晶さん(A4)、女装大会V2の 印藤淳也くん(M3)。



5 コマ大戦!

去年10月に呉高専で開催した「全日本製造業コマ大戦」を、今回は『ぐるぐるスクール呉高専場所』として開催。全国大会出場地の地元企業CASTEM様にもお越し頂き、予選を勝ち抜いた桂 拓暉くん(M1)と対戦しました。



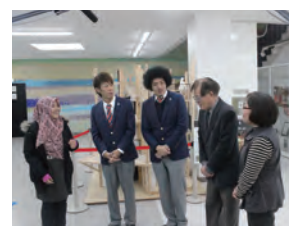
6 ロボコン部

ロボット製作部、部長の田中真実さん(M3)と主将の盛田篤矢君(M3)が、ロボットを解説。「高専ロボコン」全国大会で準優勝に輝いた『亀ロボット』を紹介しました。



7 夢をおいかける高専女子・留学生

高専女子を紹介。女子寮に入寮する5名が、トータルテンボスとの座談会で将来の夢を語りました。留学生のアティラさん(M5)が、これまで支えてくれた里親会の金本さんに感謝の手紙を渡しました。



女子学生による情報発信

-高専女子百科 Jr. 呉高専版の発行と女子学生広報部の設置-

広報室長 佐々木 伸子

最近、リケジョという言葉をよく耳にするようになりました。リケジョとは理系女子の略称で高専の女子学生もリケジョに含まれます。日本では理系というと男性がやるものというイメージがあるのでしょうか。実は、日本は世界的にみても女子の理系進路選択率が低い国なのです。現在、大学工学部の女子学生比率は12%程度と女子と工学はなかなか結びつかないようです。高専も同様に男子中心の難しいイメージがあるのかもしれませんが。

しかし、呉高専の女子学生たちをみると女子だからハンデがあるわけもなく、のびのび、生き生きと工学の専門教育を受けています。この現状を多くの人には知らないようです。

少子高齢化が進む中、女性の労働力に大きな期待が寄せられています。技術革新もこれまでと同様のシステムや価値観の中ではおこりにくいと、ダイバーシティという多様性を取り入れる組織が増えてきています。男性女性という性別だけでなく、言語や文化、宗教など様々な違いが必要とされる時代になってきているのです。その中で男性中心だった理系や工学に女性への期待が高まるのは当然のことかもしれません。

女子学生たちに期待はされているものの男子学生に比べるとこれまでの数の少なから進路の情報も少なく、女子学生を主体とした活動の場が少ないのが現状です。そこで、高専の女子学生に力をつけてもらい、これから入学を考えている女子中学生に情報提供をしようと呉高専では昨年度から「高専女子百科 Jr. 呉高専版」を発行しています。

本年度は7月に編集スタッフの学内公募を行い、4学科から集まった1年生から専攻科生まで23名で編集を行いました。夏休み期間中はSNSを使って情報交換をしながら中学生に伝えたいことはないか、自分たちの強みは何かを考えました。後期に入ってから、昼休みにお弁当を持ち寄るランチミーティングで作業を進めました。

ページごとの担当班にわかれて意見だしからコンテンツ作成、写真の収集と撮影をしています。

中学生に学科の特徴や違いをわかってもらうにはどんな情報があれば

よいか？集合写真をみれば学科のムードがわかるということでそれぞれの学科の女子学生に協力をお願いして集合写真を撮影しました。また、理系女子らしく数字で学生生活を紹介しようと、全女子学生を対象としたアンケートもを行い、集計しています。

11月の学校見学会ではポスターを作成して多くの中学生にみてもらいました。そして修正を重ねて1月に完成しました。全国高専の模範となるような質の高い広報誌ができあがっています。そして、更に自分たちが作ったものを活用していくための活動に展開しています。編集スタッフは呉高専男女共同参画推進室女子学生広報部メンバーに森野校長より任命されました。春休みを使って「母校訪問」を行い、出身中学へ配布の依頼に行きます。

この編集作業を通して学生メンバーは企画力や実行力を身につけています。新しい後輩が入学し、ますます成長していくことと思います。



ランチミーティング



女子学生広報部第一期メンバー

広報誌「高専女子百科 Jr. 呉高専版」を持って

退職にあたって -私の将来を決めたオリンピック-

人文社会系分野 谷岡 憲三

私は 17 年間勤務した公立学校を退職し、縁あって呉高専に 24 年間勤務しました。教員生活 41 年間で定年退職する事になりました。色々とお世話になり感謝申し上げます。

私が保健体育の教員を志望したのは、1964 年東京五輪の年で、中学 2 年生でした。白黒テレビから流れてくる映像は今でも鮮明に覚えています。10 月 10 日晴れ渡った空に五輪の輪、国立競技場での開会式では各国選手が整然と入場行進をし、坂井義則氏（三次高校出身）の最終聖火ランナーによる聖火台への点火はじめ、バレーボールの東洋の魔女、ウルトラ C の器械体操、重量挙げの三宅兄弟の東京五輪日本勢金メダル第一号、柔道無差別級ではオランダの巨体アントン・ヘーシンク（196cm120kg）選手と神永昭夫（179cm102kg）選手の対決など、たくさんの見どころがありました。陸上競技では、100m 決勝で 10 秒 0 の世界タイ記録で優勝した USA の『黒い弾丸』ボブ・ヘイズ選手（USA はアメリカのことだと初めて知る）、マラソンでは優勝者『裸足の英雄』（前回のローマ大会では裸足で走った）アベベ・ビキラ選手（2 大会連続優勝）がゴール後体操をしたシーンよりも、3 位に入賞した円谷幸吉選手が競技場に入って残り 200m でイギリスのヒートリー選手に抜かれ、フィニッシュ後死力を尽くしバツタリ倒れ、担架で運ばれたシーンの方が記憶に強く残っています。この 3 位の銅メダルが陸上競技で日本人選手が獲得した唯一のメダルでした。

その頃の私にとってはスポーツ＝体育で体を鍛える苦しいものとしか思っておらず、スポーツ大会は運動会と同じくらいのも思っていました。そのような私にとっては、オ

リンピックとの出会いは感動というよりもショックな出来事でした。

2020 年、二回目の東京オリンピック・パラリンピックの開催が決定した年に念願だった教員を定年退職し、6 年後には孫が前回の東京五輪のときの私の年齢に近くなるという歴史の巡り合わせに運命を強く感じています。2020 年には孫を連れてナマのオリンピックを観戦に行く事を楽しみにしています。その時に孫がどのように思うか楽しみです。

私の人生を決めたのは間違いなく中学 2 年生の時の東京五輪でした。皆さんも中学時代に将来の目標を決め、呉高専を選択・入学し頑張っています。

本心では皆さんの中からオリンピック選手が出て欲しいところですが、この 6 年間オリンピック・パラリンピックの競技場や施設の建設が多くあると聞いていますので、この歴史的な行事に技術者として携わって、オリンピック・パラリンピックに参加して欲しいです。また、役員・通訳やボランティアなど何らかの形で参加して歴史的なイベントに関わってください。



私の宝物

(東京五輪ワッペン、東京五輪記念一万円硬貨)

「研究者」から「教育者」へ

自然科学系分野 田中 慎一

平成25年4月1日付けで呉工業高等専門学校に着任しました自然科学系分野(化学)の田中慎一と申します。

私は、島根県出雲市の出身で、高校卒業まで地元出雲で過ごしておりました。大学卒業後は、学位(博士)取得のため大阪大学大学院に進学し、その間に専門分野である化学に加えて、物理、生物、医学、工学など多様な分野の研究や勉強もしてきました。また、私は学生の頃から体を動かすことが好きで、これまでに、陸上、剣道、弓道、ボート、サッカーといろいろな部活に所属してきました。中でも、私が所属していたボート部は練習がとても厳しかったのですが、非常に強く、平成8年の広島国体に代表選手として出場いたしました。卒業後は教員として大阪大学に残り、1年間のドイツ留学も含めて、工学部と医学部で研究と教育を行ってきました。



ドイツ留学中 研究所の前で！

私の研究テーマは化学の知識と技術を使って、癌や様々な病気のメカニズムを分子レベルで解明することです。特に、癌のような病

気は治った後も、転移などで再発してしまう治療が難しい病気です。そこで、私は、癌の治療だけでなく、癌の転移も診断できる、新しい治療・診断法の開発を目指しています。



大阪大学にてセミナーの風景

昨年度まで、私は大学生に自ら考え行動する「自主性と責任感」を養えるよう指導してきました。本校の学生は、優秀なだけでなく学習意欲が高いので、これまでに私が実施してきたように、ただ授業を受けるだけでなく、日々疑問に思ったこと、興味を持ったことについて、一緒に取り組み考えることで学生の「自主性と責任感」を育てていきたいと思えます。加えて、近年、我が国では「国際化と学際化」が飛躍的に進んでいます。そこで、私は、自身の経験を活かして、本校の学生が多く of 学問分野を進んで学び、その中で新しい物を生み出す力「創造力」を養い、世界的に活躍できる人材に育つよう尽力したいと思います。教員としてまだ未熟で高専の教員として至らないことが多々ありますが、精一杯努めてまいりたいと存じますのでどうぞよろしくお願いいたします。

就任にあたって

機械工学分野 國安 美子



昨年9月1日付で
機械工学科に着任し
ました國安美子
(くにやす よしこ)
です。本校では加工

学、機械設計製図、工学実験等を担当します。専門は表面改質と非破壊検査で、とくに溶射の材料開発と評価を研究しております。

機械科に一風珍しいのが入ってきたな、と思われたのではないのでしょうか。機械は男性の専門という認識が根強いように思うのですが、実際には男性・女性に関係なく学べる学問です。機械の仕組みや理論に男女は関係ないですし、私自身も旋盤などの工作機械を使い実験治具を作ったりと、女性だからできないということはほとんどないと思います。むしろ最近は女性エンジニアが増えてきています。先日、理化学研究所の小保方さんが、STAP細胞を作製する方法を研究発表され一躍有名になりました。彼女のように最近はりけじょ（理系女子）が増え、大変な活躍を遂げております。男女の垣根を越えて、それぞれの特性を活かした教育を心掛け、科学技術立国日本の復権を目指して中核技術者の育成に、微力ながら尽力してまいりたいと思います。

最後に、私は教員であり1児の母でもあります。親にとって子供はとにかく可愛く、ついついおせっかいを焼きたがるものです。皆さんの母にしては若干若い(!?)ですが、10代から20代前半の多感な時期、悩むこともたくさんあると思います。時には親のように皆さんの高専ライフが有意義なものになるように、おせっかいを焼き、一緒になって悩みながら楽しく学んでいきたいと思いますので、気軽に話しかけてください。

5年間でふりかえって

機械工学科5年 佐々木 充

私の5年間は部活漬けの5年間でした。中学でやっていたという理由で何となく入部した陸上部でしたが、5年経って引退した今では入部して良かったと思っています。

入部当初は、先輩や同級生とうまく打ち解けられるか、記録が伸びなかったらどうしようなど不安でした。しかし、先輩方が練習で細かく指導してくれたり、休憩中に楽しい話をたくさんしてくれ、そのおかげもあり、部活が楽しくなりました。そして、夏になり初めての高専大会を迎えました。正直1年生のときはよくわからずに高専大会に参加しました。しかし、大会中の先輩たちの真剣な姿や、優勝を逃がしたときの悔し涙を見て、「この大会で勝ちたい。」と思いました。目標を持つと部活がより一層楽しくなりました。学年が上がり後輩もでき、より部活が楽しくなりました。そのおかげもあり、5年間無事続けることができました。また、部活を通してとても多くの人と出会えました。陸上部に入らなければ絶対に出会えないような人達とたくさん出会えました。陸上を通してたくさんの人との繋がりができたことも部活をやっていたよかったと思うところです。

さて、5年間部活漬けだったとは言ったものの、他にも



いろいろやって、たくさんの人と出会いました。寮生活に寮生会・学生会では、学科を問わず多くの先輩・後輩・同級生と仲良くなりました。そしてなんといってもクラスメイトとの5年間の学校生活。呉高専での5年間はとても多くの出会いをくれました。とても充実した5年間でした。これからもたくさんの人との出会いを期待して頑張っていきます。

5年分の思い出と感謝

電気情報工学科 5年 都田 智大

呉高専に入学してから早や5年。正直、卒業が近づくとつれ、この5年間の学校生活が名残惜しく感じています。

さて、この5年間を振り返ってですが、結論から言うと、多分充実した時間を過ごせたと思っています。入学当初、人づきあいが苦手な僕は周囲にうまくなじめるかどうか不安でした。事実、1年や2年の時はトラブルをよく起こしていました。しかし、共に過ごす時間が長くなるにつれ、周囲への対応がわかるようになり、クラスメートとのトラブルも減りました。気軽に話せる友人の数も増えていきました。勉強面では学年が上がるにつれ内容が難しくなり、単位が取れるかどうか怪しい教科もありましたが、何とかなるべく単位を落とさずに頑張ってきました。

部活動においては、硬式テニス部に所属していましたが、実力がないため大会に出場する機会がありませんでした。それでも、仲間との交流は密に行っていたので、後輩の育成に関しては一役買っていただいていると思っています。

さて、僕自身はこのまま専攻科に進学するため、あと2年間呉高専に通うこととなりますが、卒業するほとんどの学生は、恐らくここに帰ってくることはなく、また会える機会も少ないかもしれません。ただ、もう少しだけ彼らと共に過ごしたい、そう思っています。

最後に、5年間を共に過ごしてきたクラスメートたち、学校生活を支援して下さった先生方、クラブ活動の仲間たち、そして、この5年間、呉高専で出会った人とすべての思い出たちに感謝しつつ。

ありがとう。また逢う日まで。



平成 25 年度 電気情報工学科 5 年

成長と後悔

環境都市工学科 5年 菅 聡司



卒業を前に、この五年間を振り返ってみると、数えきれないほど、たくさんの思い出が蘇ってきます。入学当初は、高専に入ったことを後悔する日々が続きました。寮の先輩は厳しいし、テストは大変だし、女の子は少ないし...などなど。しかし、今はその後悔を吹き飛ばせるほどの充実感でいっぱいです。寮生活では協調性ととともに、自立心も養えることができました。部活動の主将経験を通してリーダーシップの能力も多少なりともついたのでないかと思います。

元来、人の上に立つことに向いていない私にとって、主将の経験は大変貴重なものとなりました。部員の方々には迷惑をかけっぱなしでしたが、心から感謝しています。留年という制度によって入学当初から卒業まで、かなりクラスのメンバーが入れ替わりました。まとまりのあるクラスとは呼べませんでしたが、現在では上の写真のように、本当に仲が良く、活気のあるクラスです。私はこのクラスの一員であることを誇りに思います。

この五年間で得たものはたくさんありますが、同時に、後悔もあります。私自身、謙虚さが足りなかったことです。日々の生活に追われ、感謝の気持ちを忘れていました。今まで支えて下さった学校関係者の皆さん、友人、先輩・後輩、そして両親へ、この場を借りて感謝の気持ちを述べさせていただきます。本当にありがとうございました。

一 変わるもの、変わらないもの一

建築学科 5年 蛸瀬 大貴

私のこの呉高専での学生生活はかけがえのないものでした。振り返ると、数多くの出来事や思い出がつまっております、充実した5年間を送ることができたのではないかと思います。それは、様々な変化や経験、支えのおかげでした。親元を離れ、寮に入った1年生が最初の大変な変化でした。地元から遠く離れた呉という地で、周囲には知人が全くいない状態から学校生活がスタートしました。はじめはまず友達をつくることで一生懸命だったことを今でもよく覚えています。また、寮も自分を変化させてくれる存在でした。1年生のまだ右も左もわからない時に、生活の指導や、学校のことも先生や先輩が教えてくれ、大きな支えとなりました。そして、今度は自分がその立場になることができたら…と思ひ、寮生会の規律委員長になりました。そして、当初の目的に加え、数多くの先生方との交流や研修など、普段では体験できないようなことを体験し、成長できました。学校では、4年生の時、大きな変化がありました。それは、学生会へ入ったことです。学生会の高専祭実行委員長になった経験により、今までの自分とはまた違った考え方や行動をすることができるようになり、自分の中では大きな通過点だったと感じています。高専生活により変化したことは多くありましたが、あまり変わらなかったものもありました。それは、クラスの存在や両親の支えなどです。5年間ずっと同じクラスでした。たくさんの思い出があります。高校や大学よりも長く、社会人になる前の最後のクラスでした。たくさん騒いだり、はしゃいだりもして、たくさん怒られました。先生方にはご苦労を数多くかけてしまいました。反省しています。それに感謝もしています。ただ、楽しかったです。このクラスで本当によかったです。また、両親には実家から離れてあまり連絡もせず、心配をかけることが多かったですが、高専生活を含め20年間ずっと支えられてきました。高専生活は両親、先生方、そして友達のおかげで自分を大きく成長させると共に、有意義なものにすることができました。この5年間はずっと忘れることのない期間になることと思います。5年間本当にありがとうございました。

7年間を振り返って

専攻科機械電気工学専攻 2年 向原 康平

私は生きていく上で大事にしていることがある。それは自分が納得できる行動や判断をすることだ。では高専で過ごした7年間は自分にとってどうだったのかというと、もちろん納得している。それどころか自分にとって他では考えられないようなとても恵まれた学生生活を送ることが出来たと思っている。

私がこのように感じているのは、呉高専が自由な校風で自分のしたいことに打ち込める環境だったからだと考えている。呉高専での生活において最低限やらなければならないことというのは存在するが、それさえクリアすれば自分のしたいことに幅広くまた全力で取り組める。



7年間を振り返ると私は自分のしたいことに全力で取り組み、その結果大切なものをた

くさん手に入れることが出来た。本科の間は所属していたソフトテニス部で部活に打ち込んだ。そこでは良い仲間や先輩・後輩に出会い、全国高専大会に出場するなどたくさんの思い出ができた。専攻科に進んでからは一生懸命研究に取り組み、海外での学会発表という目標を達成することが出来た。どちらもその時自分のしたかったことで、これらに全力で取り組めたので自分は高専での学生生活に納得している。そしてそれは呉高専という恵まれた環境だったから出来たと思っている。



たくさんの思い出がある呉高専を去るのはさみしいが呉高専で取り組んできたことに自信を持って新天地でも自分が納得できるように頑張っていきたい。

私の7年間

専攻科建設工学専攻2年 下田 卓

こんにちは。専攻科2の下田卓です。高専には7年間通いましたが、もう卒業します。

本科の時は部活ばかりで、最後は部長もしました。一つ下の後輩にはなめられっぱなしでしたが仲も良くて、とても楽しかったです。売店で会った時だけ大きな声で挨拶してくるのが印象的です。試合に来なかったり、金銭的にも問題有り、苦勞をかけられました。それでも試合では戦力になりますし、同学年が少ない私には頼もしい存在でした。1人だけ同学年がいますが、頼りないチームメイトです。それでも、愚痴のはけ口になってくれたり、私の身勝手、理不尽に文句は言いながらも付き合ってくれました。なんだかんだ言っても頼っていたのだと思います。私は部長なんて柄ではないのですが、彼がいたおかげでなんとかこなしていけたのだと思います。そんなこんなでいつの間にか呉高専バスケット部は私の居場所になりました。

クラスでは、授業もあまり真面目に受けておらず、一部のグループとふざけてばかりいました。何かやられたり、何かしたり、たまに先生に叱られたりもしましたが、それもまた楽しく、毎日波乱万丈でした。当時は楽しいばかりで、仕事をするということが想像できず専攻科に入りました。

研究室の先生からは、研究のことだけでなく、後輩の面倒を見ることや社会人としての行動などとても大きなものを学びました。今思うと、本科の時代の自分は何も考えていないただの短パン小僧でした。専攻科にはいって、クラスの数も減り最初は退屈だなど思いましたが、ぜんぜん悪くありませんでした。

私の7年間は、本科では楽しんで、専攻科で成長するというものでした。



高専に入って変わったこと

機械工学科1年 高杉 栄美里

私は、はじめて教室に入るまで自分が女子一人だと知りませんでした。何も考えることが出来なくなって、不安が一気に押し寄せた春でした。

誰と目を合わせることも、誰と話すこともなく一日一日が過ぎてゆきました。けれど、そんな私が頑張れたのは寮の存在でした。初対面から無愛想だった私に気軽に話しかけてくれた同級生、大丈夫だと励ましてくれた先輩たちがいました。毎日帰るこの場所は、とても大きく温かいもので、毎日不安だった私の支えとなってくれました。

そして、私は少しずつクラスの人と話せるようになりました。優しくて頼りになる人が多く、充実した高専の行事の中で素晴らしい団結力を発揮できるクラスだとも思います。

また普通校と違い高専のクラスは、同じ道を進みそれぞれの夢を持った人々の集まりです。それに、私は刺激を受けるとともに、苦しいと思った時期がありました。専門の授業で上手く出来ないことが続いた時でした。これをあるひとに相談すると「誰も自分に何の才能があるのか分からない。だから人々は努力するのだ。そのために1%の才能でもあると信じなさい。思い込みなさい。」そうかえってきました。この言葉ほど私の価値観を変えたものはありません。何も才能がない、そう思い込んでいたから、私には努力が足らなかったのだと思います。何度も何度も失敗しました。そうなるたびにそれ以上に頑張りました。信じる気持ちとこの分野を好きな自分がそれを後押ししたんだと思います。

この一年間はあっという間でした。たくさんの素晴らしい出会いに感謝し、高専生活を送る中で常に努力が出来て人になっていきたいです。私はこれから自分のやりたい明確な夢を持ったり、機械科の良さを伝えていきたいと思っています。これから二度目の新しい春が来ます。

一年を振り返って

電気情報工学科1年 市場 創太

時が経つのは早いもので私が入学してから、もうすぐ一年が経とうとしています。そこでこの一年の行事と共に私の感想を述べたいと思います。

まず四月は入学式ですが、緊張してあまり覚えていません。その後色々なオリエンテーションがあり、いよいよ遠足です。登山ということで面倒くさそうだと思ってましたが、よく考えると他学科と初めて会う機会になるので、少し楽しみでもありました。しかし雨天で中止になってしまい残念です。後半には卓球部に入部しました。五月には入学して初の試験がありました。初なのでどう勉強して良いかわからず中学と同じようにしたら取り敢えず赤点はありませんでした。六月は特に何もありませんでした。七月は高専大会がありました。私は出れませんでした。七月後半から八月にかけて期末試験がありました。前回赤点がなかったの、あまり勉強しなかったら、二教科ほど危ないのがありました。その後は長い長い夏休みです。大体部活がありました。部活がない時は宿題したりだらだらしてました。十月も特になにもありませんでした。

十一月には高専祭がありました。私のクラスはたい焼き屋をやりましたが、材料が足りなくなることが



真ん中で鍋を持つ筆者

が多々あり大変でした。ですが、最終的には完売できたので良かったです。後半には試験がありました。またあまり勉強せず危ない教科がありました。十二月にはTOEICがありました。ほとんど勉強しなかったの点数は微妙でした。冬休みには眼鏡が壊れてしまったので修理してもらいそして新しいのを買いました。一月には駅伝大会があり、部活のほうで参加しました。二月には学年末試験です。最後なので一応勉強はしましたが結果はどうでしょう。赤点がないことを祈ります。今後は赤点をなくすように、留年をしないように頑張りたいと思います。

今年一年間を振り返って

環境都市工学科1年 山下 すみれ

昨年4月に呉高専に入学して以来、早1年が過ぎ去ろうとしています。入学当初は、小学校や中学校とは違う高等専門学校として独特の雰囲気戸惑いを抱くことが多々ありました。また、呉以外から通学する学生も多く、出身中学もばらばらなため、緊張していて、授業や休憩時間においても静かなクラスでした。

しかし、段々と月日が経過するにつれて、授業、課外活動、体育祭、高専祭などの学校行事をクラスの人たちが互いに協力し合い、取り組みにつれて、クラスもまとまり、楽しく明るい雰囲気になりました。また、普段の授業では、分からない内容を気軽に先生に質問したり、試験前には友達と苦手なところを教え合うことのできる大変良いクラスだと思います。本校の一大行事である高専祭では、模擬店で「豚汁」をつくり盛会でした。しかし、クラスとして直すべき点もあります。初めてでもあるため、話し合いの時、意見がなかなかまとまらなかったことです。もう少し意見を出し合い、話し合えたらいいなと思いました。このことは、学校行事だけでなく、授業や学校生活全般において言えることだと思います。今後は、この1年間の経験を踏まえて、2年生以降にも生かし、良いクラスになるよう努力しなくてはいけないと思います。



建築学科 1 年生 活躍する

建築学科 1 年担任 木原 滋哉

建築学科 1 年の学生たちも、入学して 1 年、すっかり呉高専になじんで、それぞれ活躍の場を見つけているようです。ほぼ全員がクラブ活動に参加して活躍しています。学習面では、難しい授業に悩まされることもあれば、楽しい授業にも出会っているようです。

担任として、学生たちのグローバル志向にも驚いています。9月に実施された大連研修に 4 名のクラスメートが参加し、帰国後には全校生徒の前でパワーポイントを使用して成果を報告してくれました。さらに 3 月には 6 名が北米派遣に参加します。またアメリカから高校生が来校した際には、3 名の学生が国際交流ボランティアとして米国高校生をサポートしてくれ、楽しく交流を深めました。

体育祭りでは、驚いたことに高学年のクラスにも打ち勝ち、バスケットボールとバレーボールでは優勝して、全校 20 クラスと専攻科チームの頂点に立ちました。1 年生ですでに優勝したわけですから、今後 4 年間連勝を重ねるのではないかと期待しています。



高専祭では、女子学生を中心にみんなで話し合っって企画を練り上げて模擬店を成功させ、企画力があるところを見せてくれました。

とはいえ、呉高専生としての生活は始まったばかりです。建築学科 1 年の学生たちが 5 年間で、どんなに成長するか、楽しみでなりません。

陸上競技への思い

機械工学科 2 年 瀬尾 敬太郎

早いものでもう 2 年生が終わり 3 年生になろうとしており、ただただ時間の流れの早さを感じるばかりです。

僕は陸上競技部に所属しており、高体連のキャプテンを務めさせていただいています。僕が 1 年生の時、3 年生の先輩方はとても頼れる先輩ばかりで凄いな、と感じていました。もう少しで自分も 3 年生になるので先輩についていくだけではなく、これからは引っ張っていけるようにしなければいけないと改めて思います。

また僕の専門種目は長距離であり、県高校駅伝入賞という目標を持っています。去年は 15 位だったので、これからまだまだみんなで努力をしていかないといけないと思っています。僕が中学の頃は、個人として県大会に出場するという目標を持っていて、自分が頑張りさえすれば達成できる目標でした。しかし、駅伝というのは 1 人だけ頑張ればいいというものではありません。県高校駅伝は 7 人でタスキをつなぎ、マラソンの距離を走るものであり、7 人全員がまとまって、お互いに助け合っって成り立つものだと思います。これからきっといろいろな事があると思いますが、みんなと切磋琢磨し頑張っていきたいと思っいます。



ロボコン部の Shall We Jump?

電気情報工学科2年 上本 康介

私はこの呉高専に入って部活動として2年間ロボット製作クラブ（通称ロボコン部）に入って活動をしてきました。

ロボコン部は毎年NHKが開催するロボットコンテストに、ロボットを各高専から2台ずつ出場させロボットの性能などを競っています。ロボコン部では毎年11月ごろに行われる国技館で行われる全国大会を目指して頑張っています。

1年生の時にはチームに所属することなく来年チームを担当するための勉強をしていました。その時には勉強という形で両方のチームにかかわっていましたがあまり知識も経験もなかったのであまり役に立つことはありませんでした。大会が終わった後から先輩たちからの指導や部内ロボコンなどの経験によって今年はチームの電気担当としてロボットの回路やプログラムをしました。

今年度の競技は「Shall We Jump?」という、縄回しのロボットとジャンパーロボットの2台のロボットが大縄跳びする競技でした。いくらある程度の経験があったとしても実際の大会に出場するロボットを担当するというのはかなりのプレッシャーがありました。夏休みに入るまでは特に問題なく進行していましたが、夏休みから重い通りに動かないストレスや、電気を担当しながら大会に出場するプレッシャーでパンク寸前になっていました。大会前に原因不明で動かない状態になったときには頭が真っ白にもなりました。大会本番では今までで経験したことのないプレッシャーと不安が襲い掛かりました。大会の結果は惜しくも全国大会には届きませんでした。全国大会出場とならなかったときにはほぼ放心状態になりました。



今年担当したチームのジャンパーロボットと縄回しロボット

今、今年度を振り返ってみるとロボコンの事がほとんどでとても充実していました。今は来年度に向けての準備をしています。今年こそ全国大会に出場して全国大会で活躍したいと思っています。

演劇同好会を部活に

環境都市工学科2年 中崎 直人
室 佳史乃

私たちは日ごろ、演劇同好会として活動しています。その中で同好会を部活に昇格できるように、細かな動作や声出しの練習、地区大会の出場や高専祭での発表、アガデミア、広南中学校さんでの公演などの活動をしてきました。その中で、これからの活動についてご報告させていただきます。

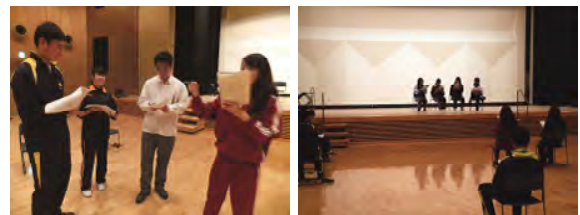
毎年3月、呉地区の高校の演劇部が集まって合同公演が行われます。今回、呉高専演劇同好会からは環境都市工学科2年の中崎と室が参加させてもらうことになりました。



基本的な発声練習から深い役作りまで、その道に精通している人にご指導いただけるのは、私たちにとってはとても貴重なことです。

なことです。

私個人としては、台詞のある役をもらったのが実質初めてなのでとても緊張しています。ですが、ほかの高校の人たちの真剣な姿勢を見たり、演劇に対する考え方を聞いたりすることはなかなかできません。それに今回の演劇の主人公は、私たちと同じ高校生なので



たくさんの人たちに見てもらいたいと思います。

私たちはここで学んだことを活かして来年度は更により芝居ができるようにしていきます！

ちなみに合同公演は、3月28日、29日、30日にそれぞれ広公民館、呉ポートピア、大和ミュージアムであります。お時間が合えば、一目でもいいのでぜひ観に来てください！



Realize My Dream !

建築学科2年 吉本 菜那

私は2013年夏、念願叶い全国高専大会剣道女子個人の部に出場しました。二回戦敗退という口惜しい結果でしたが、戦った相手は優勝。私は改めてリベンジを決意したのです。

剣道にドクターストップがかかったのは中学2年生の後半でした。踏み込みなど、様々な環境要因から体調を崩したためです。しかし決して諦めず、個別メニューによる稽古を続け、あわせて剣道よりは負担のかかりにくい居合道にも力を入れて頑張ってきました。

呉高専入学時、剣道部への入部をためらいましたが、顧問の先生の病気に対する理解と配慮、先輩方の築いてこられた明るい雰囲気、そして一般の高校にはない高専独自の「高専大会」というチャンスが、剣道を続けてゆく気持ちの支えとなったのでした。



しかし全国大会出場の直後、再び体調を崩し高熱でダウンしてしまい、以後、稽古は一時休止。度重なる状況に私は剣道に対する自信を失いかけていました。

ところが、またもやチャンス到来。顧問の先生が、呉高専の行う国際交流事業への参加を勧めて下さいました。英語には自信がありませんが、海外での交流の場で、私の剣道や居合道が、日本文化を伝えるのに役立つのではと思います。春には交流事業を無事成功させ、そして再度体調を整え、次なる高専全国大会に向け、チャレンジをするつもりです！

呉高専には必ず何かしらチャンスが待っていてくれます。諦めかけても自信を失いかけても、チャンスを逃さず思いきってチャレンジし続ければ、きっと夢は叶う……私はそう思っています。

Realize My Dream !

ステップキャンパス！

機械工学科3年 矢野 恵太

ステップキャンパスは4、5年生で「ジャンプ」をするための3年生での「ステップ」を向上させるために企画されたものです。

3日間で楽しく印象に残ってるのは学科混合クイズ大会と学科対抗料理対決です。クイズ大会では、私は知識に関しては乏しく足を引っ張るかたちになってしまいましたが、全員で正解に導こうという姿勢がありコミュニケーションを取り合っとても良かったと思います。

料理対決に関しては私は料理が好きで尚かつ班長になったため、その場を仕切ることになりました。私の班はカレーで、やるからには妥協したくはなかったので数日前からメニューを練って朝から仕込みをしました。その甲斐あってかカレー部門でトップになりました。クラスは最下位でしたが、みんな楽しそうに作っていて良かったと思います。以上の事も有り「ステップ」に関しては向上できたと思います。

ただ、今回残念だったのは3日目に予定されていた野呂山登山で雨が見込まれたため、中止になったことです。野呂山は国立公園に指定されているようなので1回は登ってみたいと思います。

最後に、ステップキャンパスを担当した役員や教員の方々は企画、準備お疲れ様でした。そしてありがとうございました。



料理大会で作ったカレーとナン

ステップキャンパスを振り返って

電気情報工学科3年 竹寄 幸之助

初日には「学科交流企画」としてドッジボール大会、クイズ大会が行われました。台風の影響により、屋外で実施予定だったドッジボール大会は体育館での実施になりました。コート数が足りず、総当たりのリーグ戦ができなくなりましたが、トーナメント方式への変更や試合時間の短縮で対応していました。珍プレーや好プレーに体育館は盛り上がり、楽しい時間を過ごすことができました。普段は他学科との交流が少ない人も、学校生活の中で接するきっかけになったと思います。

2日目は「学科対抗企画」として料理大会、ミニ運動会が予定通りに行われました。



料理大会では、しっかり準備をして料理を完成させた班もあれば、準備不足の班もありました。その班は他の班に力を借り、解決していました。ミニ運動会では「逆走リレー」や「パン食い競争」など、あまり体験したことのない競技に注目が集まりました。綱引きでは各クラスが団結力を発揮し、クラスの結束が少し強くなった気がしました。

3日目は悪天候により野呂山登山が中止となり、代わりに映画鑑賞とビンゴ大会が行われました。車で野呂山を登ったことはあったのですが、登山経験は無かったので中止は残念でした。代わりに、これまでの高専生活を振り返ることになり、これからの課題を発見することができました。

3日間を振り返ると、悪天候で予定通りに進まなかった分だけ、物足りなかった印象はありました。しかし、企画担当の学生の柔軟な対応や「ステップキャンパスを成功させたい」という思いは伝わってきました。また、普段の生活を振り返る良い機会になったと思います。

ステップキャンパスを終えて

環境都市工学科3年 丸亀 伸

ステップキャンパスとは、他学科の人達と交流を深め、同じ学科の人達とさらに交流を深め、そして自然と触れ合う行事です。

まず一日目に、ドッジボール大会とクイズ大会がありました。ドッジボールは久しぶりにやったので、とても楽しかったです。クイズ大会は盛り上げてくれる人達もいて、とても盛り上がりました。基本的にチームは他学科と構成されていたので、普段関わることのない人と交流でき、とても良い時間を過ごせました。

二日目は料理対決とミニ運動会がありました。普段ほとんど料理をしないので、料理対決は心配でしたが、班の人達がとても上手だったので、おいしい物ができて良かったです。ミニ運動会は盛り上がりました。自分も「借り人競争」に出て楽しむことができました。

三日目は野呂山登山のはずだったのですが、前日からの雨の影響で、急遽映画を見ることになりました。野呂山は今まで一度も登ったことがなく、楽しみにしていたので残念でした。映画は「我が母の記」を観ました。主人公（息子）に対する母親の愛を感じることでできる映画で、とても感動しました。その後、ビンゴ大会をやったのですが、残念ながらビンゴができず、商品をもらうことができなかったので残念でした。

三日間とても充実した時間を過ごすことができました。成功させてくれたステップキャンパスの実行の方々に感謝します。



ステップキャンパスの思い出

建築学科3年 赤木 優実

私たち三年生は、十月九日から三日間にわたり、ステップキャンパスを行いました。ステップキャンパスとは、他学科の学生と合同でスポーツ大会、料理対決、運動会、登山などを行い、自然とふれあいながら、クラスや他学科の学生との交流を深めるために毎年三年生で行われている伝統ある行事です。

一日目は、学科混合企画です。スポーツ大会とクイズ大会を行いました。学科混合のグループにわかれたため、当然、初めて話す人もたくさんいます。その後のクイズ大会ではすでに打ち解けていて、みんなで一緒に正解を話し合っている姿がたくさん見えました。

二日目は、クラス対抗企画です。料理対決とミニ運動会を行いました。三年間、共に歩んできた仲間ですが、クラス全員で料理や運動会をすることは初めてです。



家庭的な一面がみえる貴重な企画だったと思います。午後からはミニ運動会を行いました。私の担当していた企画だったため、司会を務めました。競技は、借り人競争・綱引き・逆送りレー・パン食い競争です。競技中の応援はもちろんですが、特に、全員参加の綱引きでは、クラス全員で円陣を組んだり掛け声をかけたりしていて、クラスの団結が多く見られ、とても嬉しかったです。また、企画する際には、ただ楽しいだけでなく、安全を第一に考えることの重要性を改めて感じました。クラスの団結を深め二日目を終えました。

ラスト三日目は、登山でしたが、雨天のため視聴覚室で映画鑑賞となりました。鑑賞したのは井上靖原作の『わが母の記』です。内容を読み取るのが少し難しい映画でしたが、家族について深く考えることができました。

ステップキャンパス準備期間から当日の三日間まで、企画と参加の二つの視点でとても充実した学校生活を送ることができました。

グアム特別見学旅行

機械工学科4学年 小川 将大

今年の機械工学科4年生の特別見学旅行先は昨年に引き続きグアムとなりました。

日程は10月10日から13日の3泊4日で、39名が参加しました。ちょうど台風26号を日本よりも先に体験することとなり、天候は良好とは言えませんでした。初日のビーチバーベキュー、二日目の恋人岬やスペイン広場などの見学、三日目のマリンスポーツやグループ研修など、思い出に残るクラス旅行となりました。



ビーチにてバーベキュー、全員満腹



突風の嵐の中、名所の恋人岬にて

また、入国直後はグアム英語に戸惑っていましたが、帰国する頃には英語でコミュニケーションをとることに慣れ、非常に有意義な語学研修ともなりました。

東京研修旅行

電気情報工学科4年 加茂 佳彦

電気情報工学科4年は、10月8日から10月11日の4日間、東京方面へ研修旅行に行きました。初日は、フーハ東京という所を見学しました。これは、ダイキン工業株式会社がお客様のとの距離を近くするために設けたものです。ダイキンは、2000種類以上のエアコンを取り扱っているとのことでした。私達が電気情報工学科ということで、電気・エネルギーの使用をできるだけ減らす必要性についての話もして頂きました。

2日目は、フジテレビを見学した後、自由行動ということでスカイツリーに行きましたが、生憎の天候で展望台には上がれず残念でした。3日目は秋葉原散策をしました。電気店街やその周辺には、電子部品を取り扱っている店がたくさんありました。



私は、水銀スイッチというものに興味をひかれたので購入して帰りました。クラスの間も、それぞれ気になった物を買って帰っていました。最終日は日産横浜工場内にある展示場を見学しました。歴代の車やエンジンの模型が置いてありました。

最新の電気自動車リーフも展示してありました。この4日間、日頃は体験できないようなことを体験できて、とてもためになったし、何より楽しく思い出に残る研修旅行でした。



初の海外旅行

環境都市工学科4年 大本 卓弥



僕達4年C科は台湾に行きました。台北101というビルで夜景を見たときはカップルばかりで辛かったり、国立故宮博物館という世界四大博物館に行ったりしましたが良さがわからなかったり、エスカレータに靴ひもがはさまり死に掛けたり、台湾語の日本のアニソンが流れてテンションが上がったり、初のアニメイトに気持ち悪いくらいテンションあがったり、九份という「千と千尋の〜」の舞台にもなっている所に行ったり、夜市という出店がたくさん出ている所に行ったりと色々な所に行きました。

一番楽しかったのは夜市です。もともと物価の安い台湾ですが、夜市は更に安く、スマートボール、輪投げなど様々な店がありましたが、スマートボールは35円ぐらいでした。中にはうまくやってた人もいましたが、ほとんどの人が失敗をしていました。成功できそうで、できない所は日本と同じです。他にも服など色々な物を売っていて、350円ぐらいの服、財布、ベルト、時計など売っており格安だと思います。店がいっぱいで、人がとにかく多くてにぎやかでした。嬉しかったのは台湾美人と一緒に写真を撮れたことです。言葉の通じない海外でこうして一緒に写真を撮るという行為は単に美人だからという訳ではなく、心が通ったようで嬉しかったです。

初の海外でしたが、こうして楽しく過ごせて良かったです。写真は九份のなかでも湯婆婆の部屋のモチーフらしいです。

特別見学旅行（東京）

建築学科4年 石井 雅也

私たち建築学科は平成25年10月8日から平成25年10月11日までの4日間、東京に見学旅行に行きました。引率には担任の西宮先生と仁保先生が来てくださいました。

初日は、朝の7時半に広島駅に集合し、新幹線で新横浜に向かいました。新横浜についた後は貸し切りバスで添乗員さんと一緒にまず鶴岡八幡宮でお参りした後、有名な鎌倉の大仏を見ました。近くから見るとほんとに大きく、驚きました。ついでに鳩サブルーも買いました。その後は、横浜で観覧車を見たりショッピングをしたりして楽しみました。そしていよいよバスで東京入り、お台場の夜景はすごく綺麗でした。

2日目は地下鉄で国会議事堂に行きました。



そのとき、地下鉄の朝の通勤ラッシュを経験しました。地下鉄の駅に着くともう人があふれていました。いくら待っても改札から出てくる人、入る人が絶えることはありませんでした。本当に貴重な経験ができました。国会を見学しました。

昼は東京カテドラル聖マリア大聖堂を見学しました。中は、神聖な空気に包まれていて綺麗な場



所でした。スカイツリーは強風の影響で登ることができなくて残念でした。夜は浅草でもんじゃ焼きを食べました。

3日目はみんなが楽しみにしていた屋外施設見学！それぞれ、お土産を買ったりアトラクションを楽しんだり、パレードは華やかでキャラクターが近くまで来て触れ合えたりとても楽しかったです。

最終日は巨匠フランク・ロイド・ライトが設計した自由学園明日館や東京都庁を見学しました。都庁の展望台からは富士山を見ることができました。あとは、KITTEでお土産買ったり東京駅でお土産買ったりしました。

この4日間とても楽しく過ごすことができました。そして引率の西宮先生、仁保先生ありがとうございました。

Do you know what “国際学会” is?

専攻科機械電気工学専攻2年 大久保 憲佑

みなさん、「国際学会」という言葉をご存知ですか？国際学会とは、ある分野に関する専門家が国境を越えて行う研究発表会のことです。国際という言葉の通り、国内で行われているものとの大きな違いは、英語で発表を行うという点です。

私は、11月に香港で行われた国際学会に参加しました。私が発表した内容は5年生の卒業研究のものです。その国際学会の準備として、英語論文の執筆方法や発表をする際に必要なプレゼンテーションスキルを学ぶため、9月にシンガポールで行われた技術英語研修にも参加してきました。その研修では、自分の意思をよりうまく伝えるために必要なジェスチャーやアイコンタクトなどのスキルを学び、最後まで聴衆に興味を持って聞いて頂けるように工夫しました。特に意識したことは、一方的な発表にならないように、聴衆に”Do you know~?”といった問いかけをして、コミュニケーションをとることを大切にしました。以上のスキルを身に付け、国際学会では自信を持って発表することができました。

国際学会に参加することで、自身の研究の成果が残りと、海外で発表したという自分のステータスになります。また、国際学会終了後には主催者が観光ツアーを用意してくださり、現地の文化に触れることもできます。

国際学会に出席することは、研究の集大成であるだけでなく、英語力の向上、異文化理解にも繋がり、知識の幅を広めてくれるでしょう。私が参加した学会は来年台北で開かれます。来年度の5年生、専攻科生は参加してみたいかがですか？



高専生のための夏季英語研修 -英語キャンプ 2013-

建築学科 2年 高田 侑奈

平成25年8月18日(日)から31日(土)まで、シンガポールで「高専生のための夏季英語研修 - 英語キャンプ 2013 -」が行われました。

二週間、ホテルという寮のような所で生活しながら、シンガポールの大学へ通います。9時から16時まで1日中、英語の授業が英語で行われました。先生はシンガポール人なので日本語がまったく通じません。私たちも授業中は日本語禁止です。授業内容の一つに、ペアになって文章を作り、暗記してみんなの前で発表するというものがありました。限られた時間の中で発表まで持っていくことは大変でしたが、日本ではあまりない授業だったので楽しかったです。



放課後は自由時間です。明日はどこへ行こう？と計画を練り、おみやげを選んだり、有名な場所へ行ったり、ホテルへ戻ったらみんなで宿題をしたり、話をしたり・・・と、とても充実した時間を過ごすことができました。全国から集まった高専生なのでほとんどが初対面でしたが、生活していくうちに打ち解け、今でもかけがえのない友人です。

今回、英語キャンプを通して、積極的にアピールすることの大切さ、日本人は英語力が他国に比べ、かなり足りてないということを知りました。この二週間は私にとって、かけがえのない経験でした。無駄にしないよう、これからの学習に生かしていきたいと思います。

マウイ研修を終えて

建築学科 4年 桑田 千愛

マウイ研修ではたくさんの方のことをたくさん学びました。



書きたいことはたくさんありますが、一番は英語を使えば使うほどどんどん英語に慣れていったことでした。

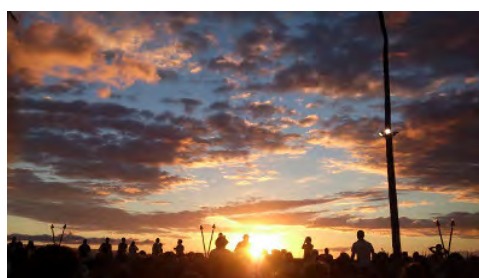
わたし達のホストファミリーのみさこさんは日本人でしたが、私たちが英語になれるように一切日本語を使わずに会話してくれました。

わたし達の意味のわからない英語は簡単な英語に直して、丁寧に英語で説明してもらいました。

最初は全くわからなかった英語での会話もだんだんと聞き取れるようになり、わたし達の伝えたいことも身振り手振りを交えながらでしたが、伝えることができるようになりました。

マウイではたくさんの方の楽しいことをしたり美味しいご飯を食べたりしましたが、なによりも私の話した英語がすんなりと相手に伝わったことが嬉しかったです。

高専には英語が苦手な方がたくさんいますが、もっと積極的に頑張ってみんなにもこの気持ちを味わって欲しいです。



台湾師範大学に語学研修に行って

電気情報工学科4年 下向 翼

行こうと思ったきっかけは、第2外国語の授業でこういう留学があると紹介され、8月は部活もなかったので旅行がてら中国語を学ぼうと思ったという単純な理由です。中国語に興味を持っていたわけでも単位をもらえるからというものはありません(校外実習として認められませんでした)。

こんな軽いノリでできたものの、過去にここに行った呉高専生はいないのと単身海外初ということもあり、行く前は緊張しました。本当は高専という団体で行く予定ではありましたが、15人から団体として認められるのに対し、4名しか集まらなかったため個人で行かなければならなくなり、最終的な高専での応募は2名でした。このもう一人の松江高専の専攻科1年の方と同部屋でこの3週間を過ごしました。

台湾師範大学到着後、語学研修の2日前に到着したのでこの間は一人で過ごさなければなりません。

初日の昼は師範大学生の少し日本語がしゃべれるアシスタントがいたので小籠包が美味しい店に連れてってもらいました。その時はこの店に着くまでの景色にも感動を覚えていたと思いますが、帰る頃には庭のように見慣れたものになり懐かしいです。

夜にはこの大学付近にある夜市というものに一人で行きました。夜市とは、祭りみたいなもので夜6時くらいから屋台が出始めてそこで食べ物を買ってその場で食べるようなものが並んでいる場所のことです。

早速、小籠包ではありませんが似たような形をしていたものでおいしそうだったので頼んでみることに。



中国語勉強して3ヶ月の実力を見せてやる→我要这个 (フォーやおジャが!) {これください} →店の人は何かを言った(伝わっていない様子) →慌てて指で表現 →ギリギリ買えた

初めての注文は緊張しました。今思い出すと中国語ではなく日

本語の羅列でした。ピンインと発音はとても大事です。中途半端では何一つ伝わりません。

次にコンビニに行き、会話はしなくていいだろうと思っていましたが有需要袋子嗎? (レジ袋入りますか?) と聞かれる落とし穴がありました。もちろん何を言っているか

わからなかったのととりあえずうなぎレジ袋をもらい、帰れると思いきやジュース2本でくじを引けるキャンペーンをやっていて早く出たいのにくじを引かされて戸惑っていたことを思い出します。

授業は、週5日の3時間。文化授業というものを3個まで取ることができカンフーと中国絵画と陶芸を選択しました。そして、校外実習というものが土曜日と日曜日のなかで3回だけとれて、台湾の名所に行きました。また、交流会というものがあり、ケーキを食べながら中国語しか喋れない師範大学生と交流する機会もありました。

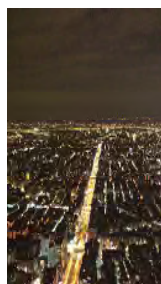
メインの語学の授業は英語で進み、僕のクラスは13名で日本語は全く喋れない先生でしたが、とてもいい先生でこんな先生が高専にもいてくれたらなと思いました。楽しい、わかり易い、笑顔、仕事でやっていると感じさせない、

元気!!

クラスは難易度別に振り分けられ、4段階で一番簡単なクラスが基礎を学び、

2番目のクラスから授業がすべて中国語で文法など3、4はネイティブと考えていいでしょう。もちろん、僕は一番簡単なクラスでした。

ハーフ、語学専門の方が多く、年齢層も比較的高いです。一番下が18歳で上が50歳くらいまでだと思います。今回の応募人数は60名ほど。他クラスでは欠席もかなり多かった様子です。いい先生といいクラスメンバーに当たって良かったです。この語学研修ではいい友達もできたので、外に遊びに行かない日はありませんでした。台湾は地下鉄に乗ればすぐにいろんな場所に行けるので毎日どこかに行けて楽しかったです。そのうちのピックアップとして台北101をあげましょう。長文になりそうなので簡単にまとめると、高いところから夜景を見て綺麗でした。(笑) この感動は伝えられないので自分でみるといいですね。



台湾の留学は今までで一番楽しく、充実したもので良い夏休みにできたと思います。発音と基礎をしっかり学べたので次に台湾に行く時は、語彙とフレーズを増やして何かを言われてyes,noの2択のような返答ではなく会話ができるようにしたいです。是非皆さんも言いたいところではありますが、半端な気持ちでは得られるものも少ないのでしっかり覚悟して決めてください。とてもいいものになるはずですよ。

大連・異文化体験プログラムに参加して

環境都市工学科 3年 上岡 雅子

平成 25 年 9 月 9 日から 9 月 13 日まで大連・異文化体験プログラムに参加し、中国の大連市に行きました。

最初の研修で大連大学と大連市教育学院附属高校の学生と交流を行い、一生懸命英語で話し（時折日本語も入りましたが）、ネイティブでない相手でも、英語を使って会話できるのは大変楽しいと感じました。

大連大学の学生と一緒に学生 4 人だけで大連市内を散策する研修では、現地の人と同じような体験をし、大連市内の活気や景色が耳や目で感じ取ることができて良い経験になりました。

3 つ目の研修は現地日系企業の視察で、野村證券(株)と THK(株)を訪問させて頂き、大連に進出している理由や、現地での社員教育、世界的に活躍する人になれ等、色々お話を伺いできました。

この 5 日間の体験は、私を大きく成長させてくれました。日本人と中国人の勉強に対する意欲の違いを感じ、相手は流暢に日本語や英語を話すのに、私は日本語しか話せず、もっと勉強したいと刺激を受けました。また世界を知るには現地に行き、肌で感じる事が重要だと思いました。

異文化とのふれあいは日本を知ることであり、自分を知ることでもあると思います。もっと日本や自分を知り、色々なことに興味をもって学校生活を送り、また機会があれば国際交流をしたいと強く思いました。



星海広場にて（著者：右）

国際交流室員の熱い思い

国際交流室 尾川 茂

時は今、激変の時代。世界はフラット化し、近隣の国レベルのことが、まるで隣近所で起きているかのようにグローバル化の波は凄まじい。企業も生き残りをかけ、イノベーションに必死の時代である。

「この激変するグローバル化時代に、イノベーションの中核となって、変化に柔軟かつ迅速に対応できる技術者を育てたい」。これが国際交流室員全員の夢。

専攻科も入れると 7 年一貫教育ができる高専の強みを生かし、バックボーンとなる専門技術力に磨きをかけ、グローバル視点で物事が考えられるスマートエンジニアを育てることを目指している。

現在、3 つのステップで取組んでいる。

第一は世界を知る。感受性豊かな低学年では、日本や世界各国の文化・習慣の違いを理解する座学と、海外に出かけ異文化を肌で感じる体験学習とが一体となったプログラムで、学生の目を世界に向ける。

第二は世界と対話する。高学年では英語を使ってコミュニケーションができ、世界に友達がいる状態。ハワイ大学での語学研修や All English Camp に参加し、実際に英語を使い、話して、学ぶことの楽しさを体感する。

第三ステップはいよいよ世界に挑戦。一貫した専門教育をバックボーンにして、研究成果を国際学会で発表し、海外インターンシップを通じて、英語で仕事体験を積む。

リニューアルした国際交流室のホームページで、そのゴールに向かって成長していくスマートエンジニアの卵に熱いエールをお願いします。



デザコン 2013in 米子

建築学分野 松野 一成

平成25年11月9日(土)、10日(日)の両日、鳥取県米子市で「全国高等専門学校デザインコンペティション2013in 米子」が開催されました。

今回からはデザコンとCADコンが同時開催となり、5部門のコンペティション、コンテストが開催され、過去最大規模での開催でした。

正式名称はデザコンが「第10回全国高等専門学校デザインコンペティション」、CADコンが「第6回3次元デジタル設計造形コンテスト」です。

本校からは予選のある創造デザインコンペティション部門に建築学科から1作品5名、空間デザインコンペティション部門に建築学科から1作品5名が本選に参加し、構造デザインコンペティション部門に環境都市工学科から1チーム6名、建築学科から1チーム6名、3次元デジタル設計造形コンテストに機械工学科から1チーム4名の計24名の学生が参加いたしました。参加した学生全員が持てる力すべてを發揮し競技に臨み、健闘し、3部門で上位入賞を果たしました。

◆3次元デジタル設計造形コンテスト

優秀賞受賞 「F. O. D.」

◆創造デザインコンペティション部

審査委員特別賞受賞 「アーチボックス」

◆構造デザインコンペティション部門

6位 建築チーム 「耐えねば。」



次回は熊本でデザコンが開催されます。「今年以上の成績を！」と意気込んでおります。学生達に温かいご支援、ご声援をお願いいたします。

高専ロボコン 2013

機械工学科3年 田中 真実

今年の競技は大縄跳びでした。人と縄回しロボットが回す縄に、ジャンプロボットが入って跳ぶというものです。コントローラではなく、センサーでロボットを制御します。

私はロボコン部で部長を務めました。4月にルールが発表されるとすぐに、Aチーム、Bチームはそれぞれアイデアを出し、試作にとりかかりました。

Aは確実に勝つことを目標とするチームで、試作・実験を夏休み前に終わらせ、8月からは本番機の改良と練習に力を注ぎました。Bはパフォーマンスで魅せることを目標とするチームで、新しい機構の開発に挑みました。大会1ヶ月前、私はBのメンバーと話し、一部の機構を簡単にして機能を減らし、課題をクリアできるロボットにしないかと提案しました。しかしBのメンバーは全員「自分たちのやりたいことを最後までやるのがロボコンだ」と妥協せず頑張り通しました。

大会当日、Aチームは素早い動きで準決勝まで勝ち進み、技術賞を受賞しました。Bチームは大会唯一の二足でジャンプを試みたチームとして大きな注目を集めました。

両チームとも目標としていた賞を取ることはできませんでしたが、自分たちのやりたいことを貫き、会場を沸かせることが出来ました。

今年の経験を活かし、来年度のロボコンでは目標を実現できるよう頑張ります。



Bチームのロボット「跳跳」

プログラミングコンテスト in 旭川

電気情報工学分野 藤井 敏則



2013年10月13日から10月14日にかけて、第24回全国高専プログラミングコンテストおよびNAPROCK第5回国際プログラミングコンテストが旭川高専を主幹校として、旭川市民文化会館で開催されました。今年は北海道ということで、寒さ対策をしていたはずですが、北海道はとて寒かったです。広島の12月中旬ぐらいの寒さでした。広島に帰った次の日に初雪が降ったそうです。

さて、プログラミングコンテストは課題部門、自由部門と競技部門の3部門に分かれています。この3部門に応募したのですが、ひさしぶりの応募ということで、課題部門と自由部門は予選落ちとなってしまいました。参加は競技部門だけとなりました。

競技部門への参加は今年は5年生中心のベテランチームで編成しています。就職や進学でもまれているので、緊張なども少なく調子よく対戦に進むことができました。1回戦は2位通過で準決勝に進み、準決勝の様子から楽勝感が漂っていましたが、負けてしまいました。「動いているプログラムはいじるな」、という格言どおり、ちょっとしたミスが足を引っ張ってしまいました。今年は、組んだプログラムにうまくはまれば、ダントツの優勝、そうでなくても5位以上は、狙らえたはずなんです、これが勝負事です。

来年度からはフレッシュな新メンバーでがんばって一緒に勉強していきたいと思います。最後に、プログラミングコンテストを支えていただいている、教職員や学生、保護者や後援会、地域のみなさまに感謝いたします。

第9回呉高専文化行事

『ファンクションコンサート』の開催

学生主事補 上寺 哲也

去る平成25年12月3日の午後、第9回目となる呉高専文化行事を呉市文化ホールにて開催しました。本行事は『工学の勉強のみでなく幅広い視野を持って欲しい』との願いから、毎年各方面の方々を招いてご公演頂いております。今回は「パーカッションの素晴らしさ・格好良さを知ってもらいたい」と結成された人気上昇中のパーカッションエンターテインメントグループ「ファンクション」をお迎えしました。

演奏開始から会場の様々な場所から登場される等、客席の皆さんを巻き込んだ楽しいパフォーマンスをご披露頂きました。またパーカッション(+α)だけとは思えない多彩な内容で、100分間がとても短く感じました。途中、学生参加コーナーを設けて頂き、「ドレミパイプ」を使って、演奏する楽しさも体験させて頂く事が出来ました。客席の皆さんも次第に盛り上がり、最後は『テキーラ!』の掛声で会場全体が一つになりました。

メンバーの皆さん、またこの行事を支えてくださった後援会および同窓会の皆さん、スタッフおよび会場での手伝いをしてくれた学生会の皆さん、本当にありがとうございました。来年度は演劇鑑賞の予定ですので、ご期待ください!



平成 25 年度体育祭り

学生主事補 加納 誠二

今年の体育祭りは10月23日(水)に開催されました。台風の影響で朝から雲が垂れ込め、午後には雨が降るといいう天気、午前中ソフトボール、ミニサッカー、バレーボール、バスケットボールの4種目が行われました。午後からは雨の影響で、学科対抗競技と屋外の競技の一部が中止となりました。

今年はすべての競技で専攻科チームが優勝・入賞したうえ、教職員チームが久しぶりにバレーボールで入賞するなど、先輩の活躍が見られました。一方で建築学科1年が、バスケットボール優勝、バレーボール3位に入賞するなど低学年の奮闘も見られ、大変盛り上がっていました。



一昨年の着任以来、学科・クラスの団結に感心させられるのが、この体育祭りでした。今年は学科対抗競技がなく残念でしたが、各競技ではチームメートと息を合わせて、学科の名誉を賭けて真剣勝負が行われていました。ただし、少し残念に思ったのは、その競技の経験者を多く揃えたクラスが上位に入っていることです。もちろん、勝負事ですから勝つことが重要ですが、一方で学校行事なのに勝つ喜びばかりに囚われ、未経験者に勝って勝者と名乗るのは少し違和感を覚えます。

来年度に向け、出場登録者のうち、経験者の数に制限を設けたり、皆が対等に戦える競技に変更したりするなどの改善が必要なように思いました。

第 49 回校内駅伝大会

学生主事補 加納 誠二

1月22日(水)に第49回校内駅伝大会が開催されました。前日少し雨が降り、開催が危ぶまれましたが、当日は雲一つない快晴となり、絶好の駅伝日和となりました。出場チームはクラスの部21チーム、オープンの部38チーム、教職員2チームの計61チームでした。



大会終了後には、恒例となりました、呉高専後援会から「ぜんざい」、学生会から「きな粉餅」の差し入れがありました。学生たちも大変楽しみにしていて、今年もおいしく頂きました。紙面をお借りして御礼申し上げます。また、コース準備から記録、片付けまで協力いただきました谷岡先生、佐賀野先生、陸上競技部員の皆様にも御礼申し上げます。

駅伝のように長い距離を走ることは普段の生活ではあまりありませんが、スポーツや武道と同じで、人間形成においては重要なことだと思います。目標に向かい、くたくたになっても足を出し、前に向かっていくことで、強靱な体と精神が鍛えられるのです。もちろん無理をせず、きちんと体調管理をすることが前提ですが、自分の限界を超えたとき、初めて成長があるとよく言われます。自分で自分の限界を作らず、自分が限界だと思っている壁を突き破ることが重要です。

別に競技として行う必要はありません。朝や夕方、時間を作って自宅付近の運動場や川原の土手を、音楽を聴きながら走るだけで構いません。自分に合った目標を立てて、それに向けた努力をすること、またその努力を続けることが重要なのです。

今年応援に回った学生も是非来年は選手として参加してくれることを期待しています。

高専祭を終えて

高専祭実行委員長 横手 直哉



2012年の12月、私は高専祭実行委員長に任命されました。

私は元来面倒くさがりな性分で、自分から行動することが少なく、他人の行動に合わせるような人間でした。誰が見たって、人の上に立ち指示をするような人間ではありませんでした。こんな私が100人近い実行委員のトップでいいのか、みんなをうまくまとめられるのかと、毎日不安で仕方ありませんでしたが、友や先輩の後押しで、委員長としてのスタートをなんとか切ることができました。

しかし、実行の活動が本格的になってくると、毎日毎日がアクシデントの連続で、実行全体をまとめるという役目をほとんど果たせていなかったと思います。それでも、高専祭が無事成功したのは、実行委員会の全員が一つの目標に向かって力を合わせた結果であると思います。不甲斐ない委員長を支えてくれたメンバー達へは感謝の気持ちでいっぱいです。

そんな仲間たちに支えられながら迎えた高専祭当日、来賓の対応や様々な企画の準備、アクシデントの対応に追われ、あんなに長い月日をかけ準備してきたのが嘘かのように、時間はあっという間に過ぎてしまい、気付いてみれば、もうエンディングでした。

私はエンディングの時に、感動や安堵感、「ああ、終わってしまった」という物悲しさから自然と涙がポロポロとこぼれてしまいました。あの時流した涙は、精一杯の努力や苦難を乗り越えた先にしか得ることができない特別なものと思います。

11月3日に涙したことを私は一生忘れられないと思います。

寮生歴3年

建築学科3年 伊達 千尋

私が入寮してから3年が経ち、制服から私服へと衣装チェンジしないといけない時期になりました。寮生歴3年にもなると、寮での過ごし方がわかってきて、ゆるい生活になりつつあります。そんな私は、女子寮ライフマスターとして寮生活に深く関わっています。役員になって知ったことは、私達は普通に過ごしていたけど、裏では先生や役員の方が、寮生活がいかに快適に過ごせるか考え、行動してくれていたことです。今までダラダラしていたことが情けなくなり、皆の手本になれるような寮生になろうと思いました。

寮生活は集団生活なので、ちゃんと生活していけるのかと初めは不安でいっぱいでしたが、そんな時支えてくれたのが、先輩や同級生達でした。お風呂などは共同、すぐ目の前や隣に先輩や後輩が生活、人との距離がとても近いので学科・学年関係なくフレンドリーに話し、話しかけられ、交友関係が広がった気がします。同級生に至っては、夜遅くまで話し合ったり、悩み事等を相談しあったり、なくてはならない存在です。入寮したての頃、何もかもが初めてのことで右往左往していたのが懐かしいです。

規則や上下関係など学ぶことも多い寮は、自分を成長させてくれる第2の実家のように感じています。



寮のイベント

電気情報工学科 4年 下原 剛

私は寮のレクリエーション委員長をしています。仕事は主に、寮でのイベントの計画、準備、実行です。寮のイベントには、新入寮生歓迎会、映画祭、寮祭などがあります。

「新入寮生歓迎会」とは、新しく入ってきた1年生と寮の役員と一緒にスポーツをするイベントです。1年生同士や先輩と交流することを目的としています。

「映画祭」とは、寮生全員が体育館に集まって、お菓子を食べ、ジュースを飲みながら、同じ映画を見る文化イベントです。

そして、「寮祭」とは、寮の最大イベントで、1年生の出し物を観たり、ゲームをしたり、BINGOで景品をGETしたりする、お祭りイベントです。

今年の寮祭はいろいろな人の協力で成功させることができました。



「ビンゴ大会」

まず、「こんなゲームがしたい」、「こんな景品がほしい」というアンケートを寮生全員に回答してもらいました。次に、ゲームの景品の買い出しを各階のレクリエーション委員に手伝ってもらいました。最後に、寮祭の実行を他の役員に手伝ってもらいました。

私は、寮生全員で寮祭を作ることができ、成功させることができたことがとてもうれしかったです。だから、これからも他のイベントもみんなで作っていきたいと思います。そして、できればなんですけど、新しいイベントにも挑戦していきたいと思います。その時は、みんなに協力してほしいです。

もっと、もっと、も～～と寮生活を楽しいものにしていきたいです！

－被災者交流施設－を模型に

広 報 室

2011年3月11日に発生した「東日本大震災」は記憶に新しいところです。

今、被災地に次々と新しい家が建ちつつあります。しかし、個人の家とは少し違います。そうです。「みんなの家」です。このみんなの家は被災地の人々が安らぎを得、さらに復興に向けてのエネルギーを培う拠点となるよう、交流できる憩いの場として建てられました。

この家は世界的建築家の伊東豊雄さんの呼びかけにより、若手建築家、写真家たちが、岩手県陸前高田市に建てたもので、2012年にベネチア・ビエンナーレ国際建築展の国別参加部門で金獅子賞を受賞したとのことです。

この「みんなの家」が復興を支援するシンボルと考えた、本校建築学科の4年生の3人（佐道奈美さん、下寺孝典君、吉川直輝君）が模型づくりを提案し、クラスメート42人が公開されている設計図に基づき、5分の1の模型を設計しました。

昨年8月、製作に取り掛かり、木材などで高さ約2メートルの「家」を完成させました。

高専祭に展示した後、校内のロビーに展示し本校を訪れた方々の目に触れました。

また、「多くの人に何かを感じてもらいたい」と、天満屋アルパーク店で開催された展示会で公開し、震災から3年。「あの日を忘れず、被災地に思いをはせて」とメッセージを届けました。



学生課ロビー展示「みんなの家」

第48回全国高等専門学校体育大会

日程：8月16日（金）～9月1日（日）

会場：東北地区高専及びその周辺の競技会場

陸上競技

【男子】

800m	予選	6位	C4	八山	亮太
	予選	6位	A1	松本	紘幸
5000m	決勝	15位	E4	松本	直樹
走高跳		10位	M4	中村	和真
走幅跳	決勝	7位	C4	薙野	智弥
三段跳	決勝	5位	C4	薙野	智弥
円盤投		16位	E2	栗栖	裕紀
		20位	C3	山中	勇人



ソフトテニス

【男子】

ダブルス	3位	A5	森川	翔平
		M5	森上	祥伍
	ベスト8	C3	磯本	侑真
		A2	山本	拓実

【女子】

ダブルス	ベスト8	A2	矢野	明日香
		A2	矢野	遥香



第22回西日本地区高等専門学校アーチェリー競技会

日程：8月22日（木）～8月23日（金）

会場：しあわせの村アーチェリー場

主管：奈良高専

【男子】

団体 準優勝

個人 30m（ダブル）男子1位

A1 小正 浩貴



剣道

【男子】

個人 初戦敗退 M4 佐藤 大志

【女子】

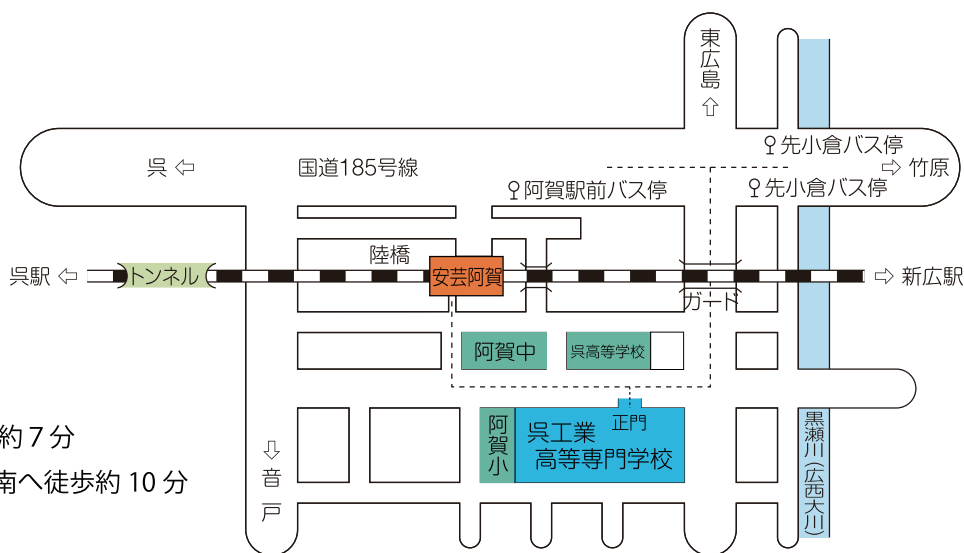
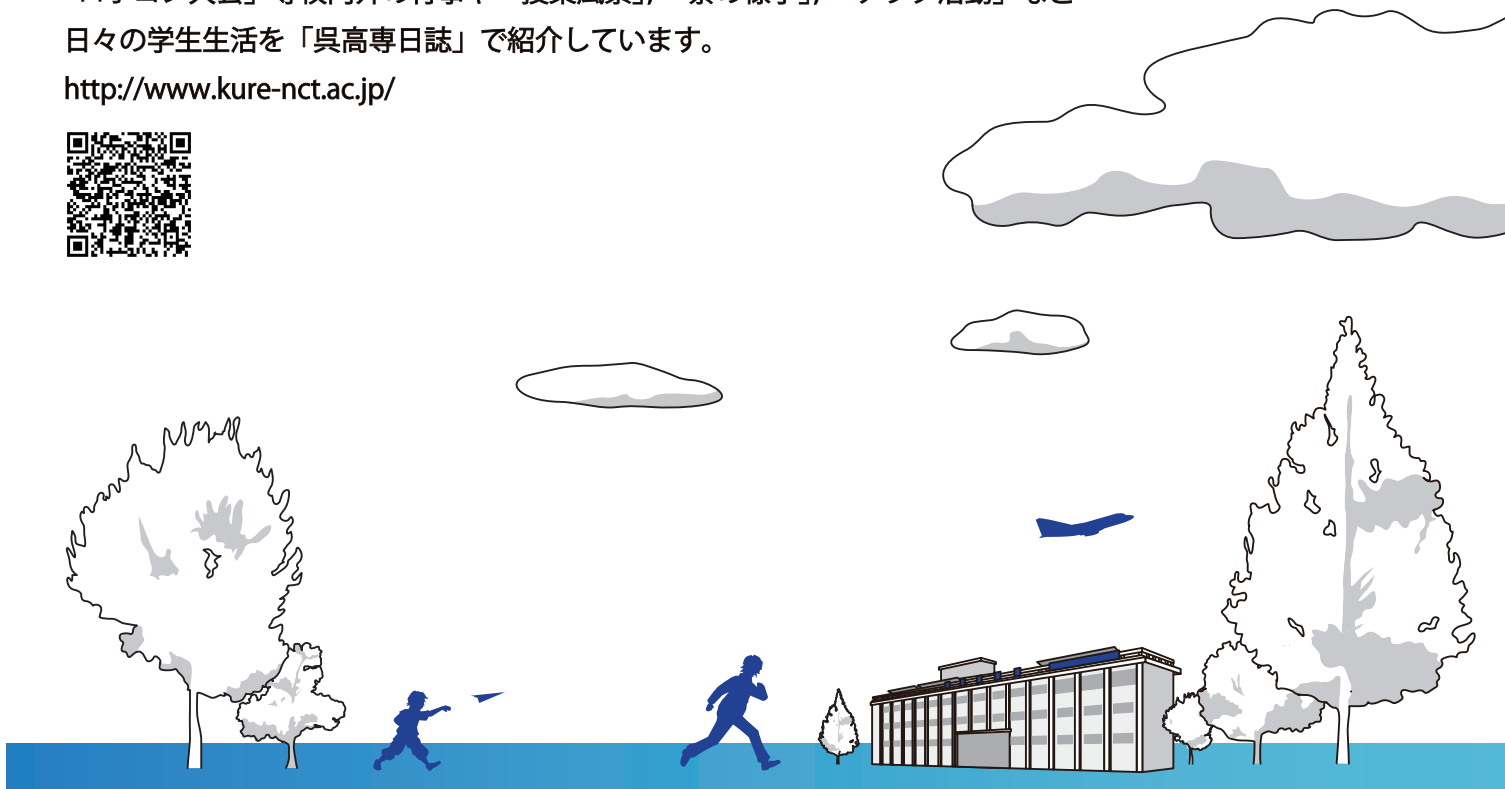
個人 ベスト8 A2 吉本 菜那



Realize your Dream 君の未来を共に創る

呉高専ではホームページで「球技大会」、「高専祭」、「駅伝大会」、「高専体育大会」、「ロボコン大会」等校外内の行事や「授業風景」、「寮の様子」、「クラブ活動」など日々の学生生活を「呉高専日誌」で紹介しています。

<http://www.kure-nct.ac.jp/>



アクセス

- JR 呉線・安芸阿賀駅下車 南へ徒歩約7分
- 広島電鉄バス・先小倉バス停下車 南へ徒歩約10分

KOSEN 50th 2012 高専制度創設50周年
『進化する高専』
(愛称: ココくん)

高専は、高専制度創設50周年にあたり、「進化する高専」を標榜し、科学技術創造立国を担う感性と創造性が豊かな実践的技術者の育成を通して、地域社会と国際社会の発展に貢献します。

編集・発行

呉工業高等専門学校 広報室

〒737-8506 呉市阿賀南2丁目2-11

TEL 0823-73-8964 E-mail kouhou@kure-nct.ac.jp